

高岡市民病院事業会計

高岡市民病院事業会計

1 業務状況

令和3年度の延患者数は 274,821 人で、前年度に比べ 9,660 人 (3.6%) 増加している。
そのうち入院患者数は 98,352 人で、前年度に比べ 4,045 人 (4.3%) 増加し、外来患者数は 176,469 人で、前年度に比べ 5,615 人 (3.3%) 増加している。

また、病床利用率は 67.2% で、前年度に比べ 2.8 ポイント上昇している。

(1) 業務実績

区 分		単位	令和3年度 A	令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
						増減C(A-B)	率C/B(%)
病床数		床	401	401	401	0	—
一般病床		床	333	333	333	0	—
精神病床		床	50	50	50	0	—
結核病床		床	12	12	12	0	—
感染症病床		床	6	6	6	0	—
診療日数	入院	日	365	365	366	0	—
	外来	日	242	243	240	△ 1	△ 0.4
延患者数		人	274,821	265,161	301,019	9,660	3.6
年間入院患者数		人	98,352	94,307	108,378	4,045	4.3
1日平均入院患者数		人	269.5	258.4	296.1	11.1	4.3
年間外来患者数		人	176,469	170,854	192,641	5,615	3.3
1日平均外来患者数		人	729.2	703.1	802.7	26.1	3.7
病床利用率		%	67.2	64.4	73.8	2.8	
一般病床		%	70.3	67.6	80.5	2.7	
精神病床		%	60.4	59.0	55.9	1.4	
結核病床		%	43.6	28.6	0.4	15.0	
感染症病床		%	0.0	4.9	0.4	△ 4.9	
職員数		人	484	482	483	2	0.4
平均在院日数		日	13.1	13.3	13.1	△ 0.2	△ 1.5

- (注) 1 病床利用率 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
2 職員数(各年度末現在)には、会計年度任用職員は含まれていない。

(2) 科別入院患者数比較表

(単位:人・%)

科 名	入 院 患 者 数					1 日平均患者数			
	令和3年度	令和2年度	令和元年度	前年度との比較		令和3年度	令和2年度	令和元年度	前年度との比較 D-E
	A	B		増減 C(A-B)	率C/B	D	E		
内科	27,789	27,515	30,803	274	1.0	76.1	75.4	84.2	0.7
神経内科	3,817	4,290	4,769	△ 473	△ 11.0	10.5	11.8	13.0	△ 1.3
消化器内科	13,386	12,228	12,398	1,158	9.5	36.7	33.5	33.9	3.2
精神神経科	11,037	10,781	10,229	256	2.4	30.2	29.5	27.9	0.7
小児科	1,053	839	1,494	214	25.5	2.9	2.3	4.1	0.6
外科	10,042	9,556	11,285	486	5.1	27.5	26.2	30.8	1.3
胸部・血管外科	1,144	1,950	3,053	△ 806	△ 41.3	3.1	5.3	8.3	△ 2.2
整形外科	10,725	10,366	13,895	359	3.5	29.4	28.4	38.0	1.0
脳神経外科	5,652	4,601	6,913	1,051	22.8	15.5	12.6	18.9	2.9
皮膚科	415	278	11	137	49.3	1.1	0.8	0.0	0.3
形成外科	640	683	456	△ 43	△ 6.3	1.8	1.9	1.2	△ 0.1
泌尿器科	4,695	3,607	3,909	1,088	30.2	12.9	9.9	10.7	3.0
産婦人科	3,986	3,964	4,500	22	0.6	10.9	10.9	12.3	0.0
眼科	2,301	2,039	2,230	262	12.8	6.3	5.6	6.1	0.7
耳鼻咽喉科	656	599	1,086	57	9.5	1.8	1.6	3.0	0.2
放射線科	0	0	0	0	—	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	719	473	435	246	52.0	2.0	1.3	1.2	0.7
麻酔科	38	173	25	△ 135	△ 78.0	0.1	0.5	0.1	△ 0.4
リウマチ科	257	365	887	△ 108	△ 29.6	0.7	1.0	2.4	△ 0.3
リハビリテーション科									
計	98,352 (365)	94,307 (365)	108,378 (366)	4,045	4.3	269.5	258.4	296.1	11.1

(注) () 内は、各年度の診療日数である。

年間入院患者数は延 98,352 人で、前年度に比べ 4,045 人(4.3%)増加している。

1 日平均患者数は 269.5 人で、前年度に比べ 11.1 人増加している。前年度に比べ増加した科は消化器内科、泌尿器科、脳神経外科等で、減少した科は胸部・血管外科、神経内科、麻酔科等である。

(3) 科別外来患者数比較表

(単位：人・%)

科 名	外 来 患 者 数					1 日平均患者数			
	令和3年度	令和2年度	令和元年度	前年度との比較		令和3年度	令和2年度	令和元年度	前年度との比較
	A	B		増減 C (A-B)	率C/B	D	E		
内科	33, 125	32, 531	33, 851	594	1. 8	136. 9	133. 9	141. 0	3. 0
神経内科	4, 867	4, 958	5, 493	△ 91	△ 1. 8	20. 1	20. 4	22. 9	△ 0. 3
消化器内科	14, 305	13, 058	14, 323	1, 247	9. 5	59. 1	53. 7	59. 7	5. 4
精神神経科	14, 897	14, 335	15, 351	562	3. 9	61. 6	59. 0	64. 0	2. 6
小児科	2, 747	1, 945	3, 516	802	41. 2	11. 4	8. 0	14. 7	3. 4
外科	9, 459	9, 335	10, 361	124	1. 3	39. 1	38. 4	43. 2	0. 7
胸部・血管外科	2, 273	2, 583	3, 003	△ 310	△ 12. 0	9. 4	10. 6	12. 5	△ 1. 2
整形外科	11, 722	11, 844	14, 473	△ 122	△ 1. 0	48. 4	48. 7	60. 3	△ 0. 3
脳神経外科	4, 743	5, 509	5, 872	△ 766	△ 13. 9	19. 6	22. 7	24. 5	△ 3. 1
皮膚科	6, 213	5, 379	6, 057	834	15. 5	25. 7	22. 1	25. 2	3. 6
形成外科	3, 446	3, 619	3, 990	△ 173	△ 4. 8	14. 2	14. 9	16. 6	△ 0. 7
泌尿器科	9, 801	9, 706	10, 243	95	1. 0	40. 5	39. 9	42. 7	0. 6
産婦人科	8, 465	8, 050	8, 846	415	5. 2	35. 0	33. 1	36. 9	1. 9
眼科	9, 722	8, 815	10, 053	907	10. 3	40. 2	36. 3	41. 9	3. 9
耳鼻咽喉科	2, 690	3, 101	3, 900	△ 411	△ 13. 3	11. 1	12. 8	16. 3	△ 1. 7
放射線科	3, 810	4, 446	5, 072	△ 636	△ 14. 3	15. 7	18. 3	21. 1	△ 2. 6
歯科口腔外科	5, 878	5, 795	6, 476	83	1. 4	24. 3	23. 8	27. 0	0. 5
麻酔科	2, 336	2, 285	2, 789	51	2. 2	9. 7	9. 4	11. 6	0. 3
リウマチ科	2, 175	2, 137	2, 372	38	1. 8	9. 0	8. 8	9. 9	0. 2
リハビリテーション科	23, 795	21, 423	26, 600	2, 372	11. 1	98. 3	88. 2	110. 8	10. 1
計	176, 469 (242)	170, 854 (243)	192, 641 (240)	5, 615	3. 3	729. 2	703. 1	802. 7	26. 1

(注) () 内は、各年度の診療日数である。

年間外来患者数は延 176, 469 人で、前年度に比べ 5, 615 人(3. 3%)増加している。

1 日平均患者数は 729. 2 人で、前年度に比べ 26. 1 人増加している。前年度に比べ増加した科はリハビリテーション科、消化器内科、眼科等で、減少した科は脳神経外科、放射線科、耳鼻咽喉科等である。

(4) 科別入院診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・%、患者1人1日当たり診療収入：円)

科名	令和3年度 A	令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較		患者1人1日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	令和3年度 D	令和2年度 E	令和元年度	前年度との 比較 D-E
内科	1,595,230	1,435,901	1,537,421	159,329	11.1	57,405	52,186	49,911	5,219
神経内科	171,799	176,144	185,302	△ 4,345	△ 2.5	45,009	41,059	38,856	3,950
消化器内科	742,005	617,066	601,527	124,939	20.2	55,431	50,463	48,518	4,968
精神神経科	198,499	199,802	180,926	△ 1,303	△ 0.7	17,985	18,533	17,688	△ 548
小児科	49,305	39,161	69,234	10,144	25.9	46,823	46,676	46,341	147
外科	699,754	627,550	736,339	72,204	11.5	69,683	65,671	65,249	4,012
胸部・血管外科	81,992	133,621	225,275	△ 51,629	△ 38.6	71,671	68,524	73,788	3,147
整形外科	683,065	631,179	786,767	51,886	8.2	63,689	60,889	56,622	2,800
脳神経外科	291,770	250,716	316,990	41,054	16.4	51,622	54,492	45,854	△ 2,870
皮膚科	13,595	10,377	438	3,218	31.0	32,759	37,328	39,794	△ 4,569
形成外科	26,879	32,474	18,153	△ 5,595	△ 17.2	41,999	47,545	39,809	△ 5,546
泌尿器科	279,350	238,465	242,257	40,885	17.1	59,499	66,112	61,974	△ 6,613
産婦人科	327,015	326,616	349,849	399	0.1	82,041	82,396	77,744	△ 355
眼科	225,837	180,326	188,680	45,511	25.2	98,147	88,438	84,610	9,709
耳鼻咽喉科	37,050	31,140	56,945	5,910	19.0	56,479	51,987	52,436	4,492
放射線科	0	0	0	0	—	0	0	0	0
歯科口腔外科	46,052	31,028	26,444	15,024	48.4	64,050	65,598	60,792	△ 1,548
麻酔科	8,261	16,866	5,692	△ 8,605	△ 51.0	217,403	97,493	227,664	119,910
リウマチ科	9,793	16,444	35,157	△ 6,651	△ 40.4	38,106	45,052	39,636	△ 6,946
リハビリテーション科									
計	5,487,251	4,994,876	5,563,396	492,375	9.9	55,792	52,964	51,333	2,828

年間入院診療収入は5,487,251千円で、前年度に比べ492,375千円(9.9%)増加している。

患者1人1日当たりの診療収入は55,792円で、前年度に比べ2,828円増加している。前年度に比べ増加した科は麻酔科、眼科、内科等で、減少した科はリウマチ科、泌尿器科、形成外科等である。

(5) 科別外来診療収入比較表

(単位：診療収入：千円・%、患者1人1日当たり診療収入：円)

科名	令和3年度 A	令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較		患者1人1日当たり診療収入			
				増減 C(A-B)	率C/B	令和3年度 D	令和2年度 E	令和元年度	前年度との 比較 D-E
内科	525,641	513,665	552,243	11,976	2.3	15,868	15,790	16,314	78
神経内科	27,331	28,052	33,234	△ 721	△ 2.6	5,616	5,658	6,050	△ 42
消化器内科	212,595	171,486	175,558	41,109	24.0	14,862	13,133	12,257	1,729
精神神経科	70,222	65,838	72,501	4,384	6.7	4,714	4,593	4,723	121
小児科	22,774	15,043	26,171	7,731	51.4	8,290	7,734	7,443	556
外科	308,818	306,689	317,369	2,129	0.7	32,648	32,854	30,631	△ 206
胸部・血管外科	35,125	43,201	48,427	△ 8,076	△ 18.7	15,453	16,725	16,126	△ 1,272
整形外科	96,785	100,801	109,528	△ 4,016	△ 4.0	8,257	8,511	7,568	△ 254
脳神経外科	38,496	41,713	46,029	△ 3,217	△ 7.7	8,116	7,572	7,839	544
皮膚科	14,859	10,869	10,514	3,990	36.7	2,392	2,021	1,736	371
形成外科	12,086	12,998	15,376	△ 912	△ 7.0	3,507	3,591	3,854	△ 84
泌尿器科	158,122	182,887	157,506	△ 24,765	△ 13.5	16,133	18,843	15,377	△ 2,710
産婦人科	76,234	78,489	85,193	△ 2,255	△ 2.9	9,006	9,750	9,631	△ 744
眼科	145,943	140,303	144,789	5,640	4.0	15,012	15,916	14,403	△ 904
耳鼻咽喉科	21,523	25,050	30,376	△ 3,527	△ 14.1	8,001	8,078	7,789	△ 77
放射線科	84,750	108,486	85,036	△ 23,736	△ 21.9	22,244	24,401	16,766	△ 2,157
歯科口腔外科	40,247	41,229	43,915	△ 982	△ 2.4	6,847	7,115	6,781	△ 268
麻酔科	15,786	13,646	10,885	2,140	15.7	6,758	5,972	3,903	786
リウマチ科	39,964	45,096	52,448	△ 5,132	△ 11.4	18,374	21,102	22,111	△ 2,728
リハビリテーション科	73,798	62,416	71,404	11,382	18.2	3,101	2,913	2,684	188
計	2,021,099	2,007,957	2,088,502	13,142	0.7	11,453	11,752	10,841	△ 299

年間外来診療収入は2,021,099千円で、前年度に比べ13,142千円(0.7%)増加している。

患者1人1日当たりの診療収入は11,453円で、前年度に比べ299円減少している。前年度に比べ増加した科は消化器内科、麻酔科、小児科等で、減少した科はリウマチ科、泌尿器科、放射線科等である。

(6) 手術及び検査状況

(単位：件・%)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
手術件数	3,778	3,628	4,075	150	4.1
検査件数	1,896,828	1,808,237	1,899,674	88,591	4.9
X線件数	57,971	57,618	62,950	353	0.6

(注) X線件数のうちエコー件数は除く。

(7) 処方箋の状況

(単位：枚・%)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
処方箋枚数	80,841	80,065	88,315	776	1.0
うち院外処方箋枚数	76,255	76,207	82,856	48	0.1
院外処方箋率	94.3	95.2	93.8	△ 0.9	△ 0.9

(8) 調剤の状況

(単位：件・%)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
入院患者調剤件数	89,895	83,392	95,640	6,503	7.8
外来患者調剤件数	12,811	11,290	15,609	1,521	13.5
計	102,706	94,682	111,249	8,024	8.5

(9) 給食の状況

(単位：食・%)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
				増減C(A-B)	率C/B
一般食数	147,193	140,072	159,269	7,121	5.1
特別食数	89,285	86,444	96,399	2,841	3.3
計	236,478	226,516	255,668	9,962	4.4

(注) 特別食はエネルギーコントロール食、たんぱくコントロール食などである。

(10) 部門別100床当たり職員数

(単位：人・%)

区 分	令和3年度		令和2年度		令和元年度		前年度との比較		全国平均 (令和2年度)
	職員数	100床当たり 職員数 A	職員数	100床当たり 職員数 B	職員数	100床当たり 職員数	増減 C(A-B)	率 C/B	
医師	70	17.5	68	17.0	67	16.7	0.5	2.9	27.3
看護部門	333	83.0	328	81.8	330	82.3	1.2	1.5	97.4
薬剤部門	16	4.0	17	4.2	16	4.0	△ 0.2	△ 4.8	5.1
事務部門	25	6.2	25	6.2	27	6.7	0.0	—	19.1
給食部門	6	1.5	6	1.5	5	1.2	0.0	—	3.3
放射線部門	16	4.0	16	4.0	17	4.2	0.0	—	4.9
検査部門	20	5.0	20	5.0	19	4.7	0.0	—	6.6
その他職員	20	5.0	20	5.0	20	5.0	0.0	—	13.0
計	506	126.2	500	124.7	501	124.8	1.5	1.2	176.7

(注) 1 部門別100床当たり職員数 = $\frac{\text{部門別職員数}}{\text{病床数}} \times 100$

2 医師職員数には、フルタイム会計年度任用職員を含む。

3 事務部門の職員数は、診療情報管理士を含む。

100床当たりの職員数は126.2人で、前年度に比べ1.5人(1.2%)増加している。

(11) 職員（医師・看護部門）１人１日当たり患者数・診療収入比較表

(単位:人・円・%)

区 分			令和３年度 A	令和２年度 B	令和元年度	前年度との比較		全国平均 (令和２年度)
						増減C(A-B)	率C/B	
患者数	医 師	入 院	3.6	3.6	4.2	0.0	－	3.0
		外 来	6.5	6.4	7.4	0.1	1.6	5.1
		計	10.1	10.0	11.6	0.1	1.0	8.1
	看護部門	入 院	0.6	0.6	0.8	0.0	－	0.7
		外 来	1.2	1.1	1.4	0.1	9.1	1.2
		計	1.8	1.7	2.2	0.1	5.9	1.9
診療収入		医 師	277,820	264,029	294,587	13,791	5.2	266,603
		看護部門	49,310	45,922	56,702	3,388	7.4	62,468

(注) 1 職員１人１日当たり患者数 = $\frac{\text{年間延入院（又は外来）患者数}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$

2 「年間延医師（又は看護部門）数」は、年度中において在籍した医師（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〔又は看護部門（フルタイム会計年度任用職員及びパートタイム会計年度任用職員を含む。）の延数〕である。

3 職員１人１日当たり診療収入 = $\frac{\text{入院・外来診療収入}}{\text{年間延医師（又は看護部門）数}}$

職員１人１日当たりの患者数は、医師部門の入院及び外来の合計人数が10.1人で、前年度に比べ0.1人（1.0%）増加し、看護部門の入院及び外来の合計人数は1.8人で、前年度に比べ0.1人（5.9%）増加している。

職員１人１日当たりの診療収入は、医師部門が277,820円で、前年度に比べ13,791円（5.2%）増加し、看護部門は49,310円で、前年度に比べ3,388円（7.4%）増加している。

(12) 検査の状況

区 分		単位	令和３年度 A	令和２年度 B	令和元年度	前年度との比較		全国平均 (令和２年度)
						増減C(A-B)	率C/B(%)	
患者100人当たり検査件数		件	690.2	681.9	631.1	8.3	1.2	620.0
検査技師１人当たり検査件数		件	94,841	90,412	99,983	4,429	4.9	63,257
検査技師１人当たり検査収入		千円	30,273	26,154	29,088	4,119	15.7	26,785

(注) 1 患者100人当たり検査件数 = $\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年間延入院・外来患者数}} \times 100$

2 検査技師１人当たり検査収入 = $\frac{\text{入院・外来検査収入}}{\text{検査技師数}}$

患者100人当たりの検査件数は690.2件で、前年度に比べ8.3件（1.2%）増加している。

検査技師１人当たりの検査件数は94,841件で、前年度に比べ4,429件（4.9%）、検査収入は30,273千円で、前年度に比べ4,119千円（15.7%）増加している。

(13) 材料費

区 分		単位	令和３年度	令和２年度	令和元年度	前年度との比較		全国平均 (令和2年度)	
			A	B		増減 C(A-B)	率 C/B(%)		
薬品費	薬品費	千円	901,431	919,205	991,266	△ 17,774	△ 1.9		
	経常費用に占める割合		%	10.2	10.3	11.2	△ 0.1		12.2
	医業収益に対する割合		%	11.6	12.7	12.5	△ 1.1		14.8
	患者１人１日当たり薬品費		円	3,280	3,467	3,293	△ 187	△ 5.4	5,145
	薬品使用効率	投薬	%	76.9	74.5	79.9	2.4		93.0
		注射	%	76.9	78.9	73.3	△ 2.0		95.4
		計	%	76.9	78.4	74.4	△ 1.5		94.9
診療材料費	診療材料費	千円	692,665	645,627	730,907	47,038	7.3		
	経常費用に占める割合		%	7.8	7.2	8.2	0.6		10.2
	医業収益に対する割合		%	8.9	8.9	9.2	0.0		12.4
給食材料費	給食材料費	千円	68,411	65,263	69,215	3,148	4.8		
	経常費用に占める割合		%	0.8	0.7	0.8	0.1		0.4
	医業収益に対する割合		%	0.9	0.9	0.9	0.0		0.4
	患者１人１日当たり給食材料費		円	696	692	639	4	0.6	414
	患者１人１日当たり給食収入		円	1,633	1,651	1,748	△ 18	△ 1.1	1,552
	計		千円	1,662,507	1,630,095	1,791,388	32,412	2.0	

(注) 1 薬品使用効率 = $\frac{\text{薬品収入}}{\text{薬品費}} \times 100$

2 診療材料費には、医療消耗備品を含む。

ア 薬品費

薬品費は901,431千円で、前年度に比べ17,774千円(△1.9%)減少している。

患者1人1日当たりの薬品費は3,280円で、前年度に比べ187円(△5.4%)減少している。

また、経常費用に占める割合は10.2%で、前年度に比べ0.1ポイント低下している。医業収益に対する割合は11.6%で、前年度に比べ1.1ポイント低下している。

イ 診療材料費

診療材料費は692,665千円で、前年度に比べ47,038千円(7.3%)増加している。

また、経常費用に占める割合は7.8%で、前年度に比べ0.6ポイント上昇し、医業収益に対する割合は8.9%で、前年度と同率である。

ウ 給食材料費

給食材料費は68,411千円で、前年度に比べ3,148千円(4.8%)増加している。

入院患者1人1日当たりの給食材料費は696円で、前年度に比べ4円(0.6%)増加し、給食収入は1,633円で、前年度に比べ18円(△1.1%)減少している。

また、経常費用に占める割合は0.8%で、前年度に比べ0.1ポイント上昇し、医業収益に対する割合は0.9%で、前年度と同率である。

2 予算の執行状況

(1) 収益的収入及び支出（消費税込み）

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位:千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考
収 入	1 医業収益	8,108,519	7,806,980		△ 301,539	96.3	仮受消費税 14,282
	2 医業外収益	1,924,387	2,319,840		395,453	120.5	仮受消費税 2,751
	3 特別利益	5,181	5,039		△ 142	97.3	
	計	10,038,087	10,131,859		93,772	100.9	仮受消費税 17,033
支 出	1 医業費用	8,832,746	8,628,425	0	204,321	97.7	仮払消費税 218,593
	2 医業外費用	295,397	250,783	0	44,614	84.9	
	3 特別損失	5,321	5,039	0	282	94.7	仮払消費税 2
	4 予備費	0	0	0	0	—	
	計	9,133,464	8,884,247	0	249,217	97.3	仮払消費税 218,595
収支差引額		904,623	1,247,612				

ア 収益的収入

予算額 10,038,087 千円に対し、決算額は 10,131,859 千円(仮受消費税 17,033 千円を含む。)で、執行率 100.9%、93,772 千円の収入増である。

これは主に、医業収益が減少したものの、医業外収益が増加したことによるものである。

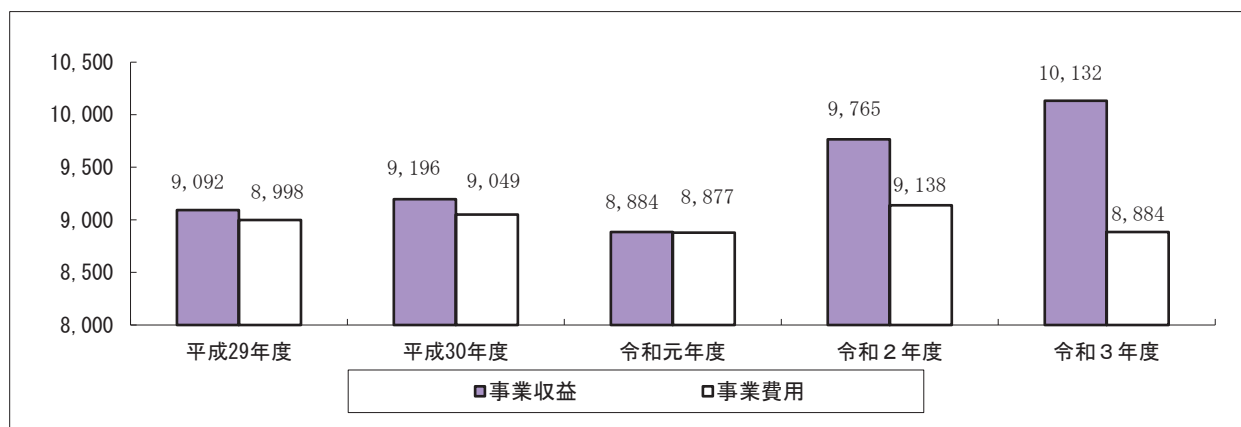
イ 収益的支出

予算額 9,133,464 千円に対し、決算額は 8,884,247 千円(仮払消費税 218,595 千円を含む。)で、執行率 97.3%、249,217 千円の不用額が生じている。

これは主に、医業費用に不用額が生じたことによるものである。

収益的収入及び支出決算額の推移

(単位：百万円)



(2) 資本的収入及び支出(消費税込み)

各科目の予算の執行状況は、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分		予算額 A	決算額 B	翌年度 繰越額 C	予算額に対する 増減 B+C-A 又は不用額 A-B-C	執行率 B/A	備 考
収 入	1 企業債	347,900	133,700		△ 214,200	38.4	
	2 出資金	78,499	103,628		25,129	132.0	
	3 固定資産売却収入	1,050	161		△ 889	15.3	
	4 補助金	31,465	32,929		1,464	104.7	
	計	458,914	270,418		△ 188,496	58.9	
支 出	1 建設改良費	503,447	247,506	158,400	97,541	49.2	仮払消費税 22,501
	2 企業債償還金	1,035,031	1,035,030	0	1	100.0	
	3 投資及び出資金	1,050	59	0	991	5.6	
	計	1,539,528	1,282,595	158,400	98,533	83.3	仮払消費税 22,501
収支差引額		△ 1,080,614	△ 1,012,177				

ア 資本的収入

予算額 458,914 千円に対し、決算額は 270,418 千円で、執行率 58.9%、188,496 千円の収入減である。

これは主に、企業債が減少したことによるものである。

イ 資本的支出

予算額 1,539,528 千円に対し、決算額は 1,282,595 千円（仮払消費税 22,501 千円を含む。）で、執行率 83.3%、翌年度繰越額 158,400 千円を差し引くと 98,533 千円の不用額が生じている。

これは主に、建設改良費に不用額が生じたことによるものである。

ウ 補てん財源

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 1,012,177 千円は、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金 961,782 千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 459 千円並びに繰越工事資金 49,936 千円で補てんされている。

(3) その他の事項

ア 企業債

起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、予算の定めに従って行われていた。

イ 一時借入金

一時借入金の限度額は1,000,000千円であるが、借入額はその範囲内であった。

ウ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

この経費は職員給与費及び交際費であり、他の経費との間における流用はなかった。

エ 他会計からの補助金

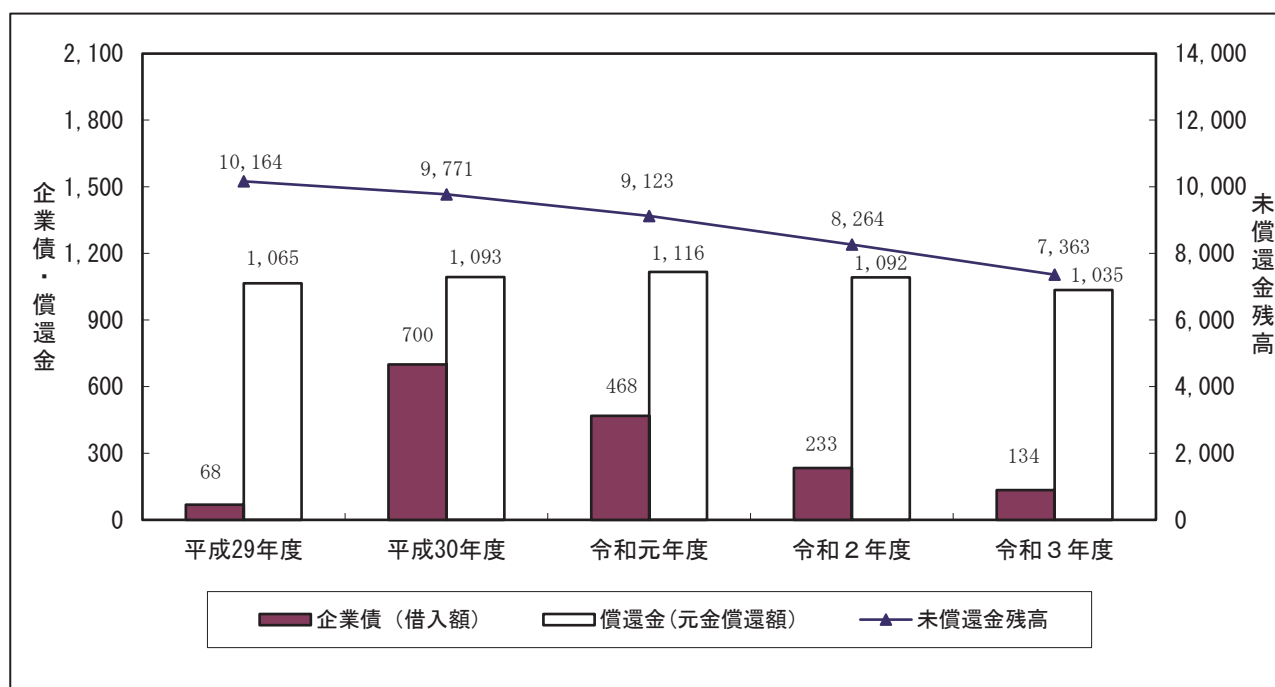
一般会計からの補助金は、予算の範囲内であった。

オ たな卸資産の購入状況

予算に定められたたな卸資産の購入限度額は1,162,217千円で、購入額はその範囲内であった。

企業債（借入額）、償還金（元金償還額）及び未償還金残高の推移

（単位：百万円）



3 経営状況

経営状況は、下表のとおりである。

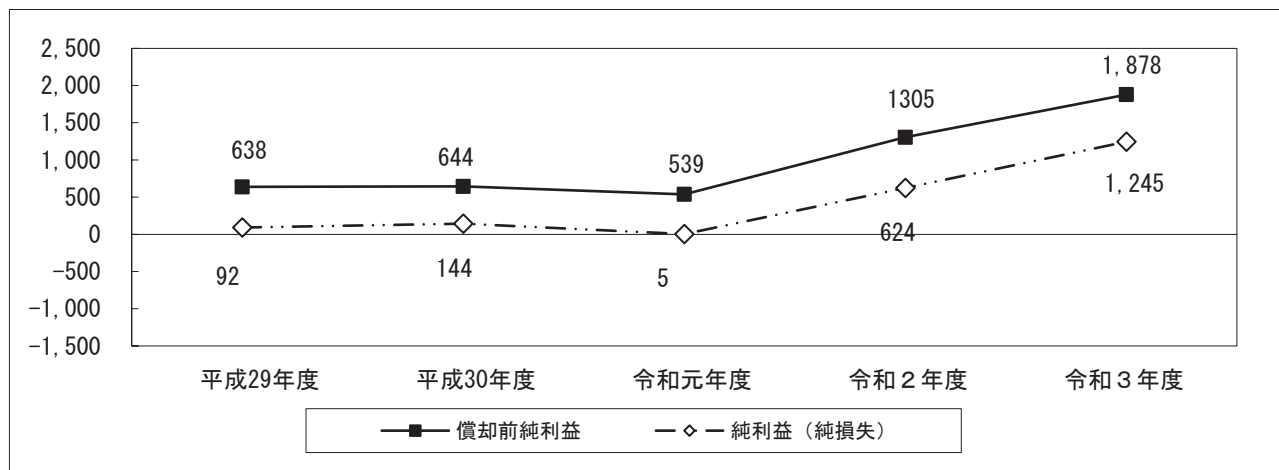
損益比較表

(単位:千円・%)

区 分			令和3年度		令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
収 益	1 医業収益 (ア)		7,792,698	77.0	7,260,998	7,944,356	531,700	7.3
	2 医業外収益 (イ)		2,317,089	22.9	2,305,039	922,648	12,050	0.5
	3 特別利益 (ウ)		5,039	0.1	183,022	0	△ 177,983	△ 97.2
	計		10,114,826	100.0	9,749,059	8,867,004	365,767	3.8
費 用	1 医業費用 (エ)		8,409,832	94.8	8,437,225	8,348,114	△ 27,393	△ 0.3
	2 医業外費用 (オ)		454,912	5.1	504,832	512,869	△ 49,920	△ 9.9
	3 特別損失 (カ)		5,037	0.1	183,013	586	△ 177,976	△ 97.2
	計		8,869,781	100.0	9,125,070	8,861,569	△ 255,289	△ 2.8
医業収支 (ア) - (エ) a			△ 617,134		△ 1,176,227	△ 403,758	559,093	47.5
医業外収支 (イ) - (オ) b			1,862,177		1,800,207	409,779	61,970	3.4
経常収支 (a + b) c			1,245,043		623,980	6,021	621,063	99.5
特別収支 (ウ) - (カ) d			2		9	△ 586	△ 7	△ 77.8
当年度純利益 (△ 損失) c + d			1,245,045		623,989	5,435	621,056	99.5

償却前純利益と純利益（純損失）の推移

(単位:百万円)



収益10,114,826千円に対し、費用は8,869,781千円で、1,245,045千円の当年度純利益が生じている。

前年度に比べ621,056千円（99.5％）の増益である。

(1) 収益の部

収益の内訳は、下表のとおりである。

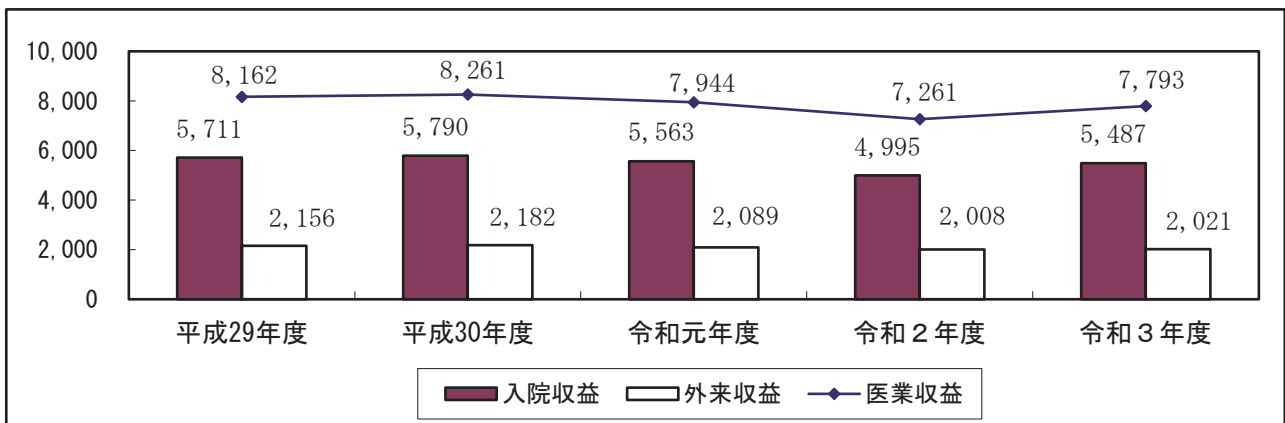
収益内訳表

(単位:千円・%)

区 分		令和 3 年度		令和 2 年度 B	令和元年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比			増減C (A-B)	率C/B
収	1 医業収益	7, 792, 698	77. 0	7, 260, 998	7, 944, 356	531, 700	7. 3
	(1)入院収益	5, 487, 251	54. 2	4, 994, 876	5, 563, 396	492, 375	9. 9
	(2)外来収益	2, 021, 099	20. 0	2, 007, 957	2, 088, 502	13, 142	0. 7
	(3)その他医業収益	284, 348	2. 8	258, 165	292, 458	26, 183	10. 1
益	2 医業外収益	2, 317, 089	22. 9	2, 305, 039	922, 648	12, 050	0. 5
	(1)受取利息及び配当金	0	0. 0	0	0	0	—
	(2)他会計補助金	2, 018, 177	20. 0	2, 219, 019	881, 851	△ 200, 842	△ 9. 1
	(3)長期前受金戻入	46, 071	0. 4	14, 739	14, 850	31, 332	212. 6
	(4)その他医業外収益	252, 841	2. 5	71, 281	25, 947	181, 560	254. 7
	3 特別利益	5, 039	0. 1	183, 022	0	△ 177, 983	△ 97. 2
	(1)その他特別利益	5, 039	0. 1	183, 022	0	△ 177, 983	△ 97. 2
	計	10, 114, 826	100. 0	9, 749, 059	8, 867, 004	365, 767	3. 8

医業収益の推移

(単位:百万円)



ア 医業収益

医業収益は7,792,698千円で、前年度に比べ531,700千円(7.3%)増加している。
これは主に、入院収益が増加したことによるものである。

イ 医業外収益

医業外収益は2,317,089千円で、前年度に比べ12,050千円(0.5%)増加している。
これは主に、その他医業外収益に国庫補助金の新型コロナウイルス関係補助金等を計上したことによるものである。

ウ 特別利益

特別利益は5,039千円で、前年度に比べ177,983千円(△97.2%)減少している。
これは、新型コロナウイルス感染症患者に対応する医療従事者への慰労金、激励金等の収入が減少したことによるものである。

(2) 費用の部

費用の内訳は、下表のとおりである。

費用内訳表

(単位:千円・%)

区 分		令和 3 年度		令和 2 年度 B	令和元年度	前年度との比較	
		金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
費用	1 医業費用	8,409,832	94.8	8,437,225	8,348,114	△ 27,393	△ 0.3
	(1) 給与費	4,673,372	52.7	4,619,673	4,687,726	53,699	1.2
	(2) 材料費	1,662,507	18.7	1,630,095	1,791,388	32,412	2.0
	薬品費	901,431	10.1	919,205	991,266	△ 17,774	△ 1.9
	診療材料費	687,443	7.7	640,873	726,790	46,570	7.3
	給食材料費	68,411	0.8	65,263	69,215	3,148	4.8
	医療消耗備品	5,222	0.1	4,754	4,117	468	9.8
	(3) 経費	1,426,500	16.1	1,399,730	1,309,718	26,770	1.9
	(4) 減価償却費	632,960	7.1	680,667	533,121	△ 47,707	△ 7.0
	(5) その他	14,493	0.2	107,060	26,161	△ 92,567	△ 86.5
	2 医業外費用	454,912	5.1	504,832	512,869	△ 49,920	△ 9.9
	(1) 支払利息	139,989	1.6	158,046	175,451	△ 18,057	△ 11.4
	(2) 長期前払消費税償却	0	0.0	26,728	26,728	△ 26,728	皆減
	(3) その他医業外費用	314,923	3.5	320,058	310,690	△ 5,135	△ 1.6
	3 特別損失	5,037	0.1	183,013	586	△ 177,976	△ 97.2
	(1) その他特別損失	5,037	0.1	183,013	586	△ 177,976	△ 97.2
計		8,869,781	100.0	9,125,070	8,861,569	△ 255,289	△ 2.8

ア 医業費用

医業費用は8,409,832千円で、前年度に比べ27,393千円(△0.3%)減少している。
これは主に、その他(資産減耗費)及び減価償却費が減少したことによるものである。

イ 医業外費用

医業外費用は454,912千円で、前年度に比べ49,920千円(△9.9%)減少している。
これは主に、長期前払消費税償却及び支払利息が減少したことによるものである。

ウ 特別損失

特別損失は5,037千円で、前年度に比べ177,976千円(△97.2%)減少している。
これは、新型コロナウイルス感染症患者に対応する医療従事者への慰労金、激励金等の支出が減少したことによるものである。

4 財政状況

資産、負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

主要勘定貸借比較表

(単位：千円・%)

区 分			令和3年度		令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
借 方	資 産	1 固定資産	8,299,895	71.5	8,710,609	9,032,585	△ 410,714	△ 4.7
		2 流動資産	3,312,851	28.5	2,743,949	2,029,839	568,902	20.7
	資産合計		11,612,746	100.0	11,454,558	11,062,424	158,188	1.4
貸 方	負 債	1 固定負債	6,325,949	54.5	7,228,880	8,031,410	△ 902,931	△ 12.5
		2 流動負債	2,133,666	18.4	2,400,299	2,174,575	△ 266,633	△ 11.1
		3 繰延収益	536,170	4.6	542,224	295,446	△ 6,054	△ 1.1
		負債合計	8,995,785	77.5	10,171,403	10,501,431	△ 1,175,618	△ 11.6
	資 本	4 資本金	11,907,411	102.5	11,818,650	11,720,477	88,761	0.8
		5 剰余金	△ 9,290,450	△ 80.0	△ 10,535,495	△ 11,159,484	1,245,045	11.8
		資本合計	2,616,961	22.5	1,283,155	560,993	1,333,806	103.9
	負債・資本合計		11,612,746	100.0	11,454,558	11,062,424	158,188	1.4

(1) 資産の部

資産の内訳は、下表のとおりである。

資産内訳表

(単位：千円・%)

区 分			令和3年度		令和2年度 B	令和元年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比			増減C(A-B)	率C/B
借 方	資 産	1 固定資産	8,299,895	71.5	8,710,609	9,032,585	△ 410,714	△ 4.7
		(1)有形固定資産	8,295,614	71.5	8,706,226	9,002,198	△ 410,612	△ 4.7
		土地	1,114,298	9.6	1,114,298	1,114,298	0	—
		建物	5,907,542	50.9	6,094,101	6,311,216	△ 186,559	△ 3.1
		構築物	24,218	0.2	24,218	24,218	0	—
		器械及び備品	1,241,999	10.7	1,472,012	1,551,909	△ 230,013	△ 15.6
		車両	557	0.0	557	557	0	—
		建設仮勘定	7,000	0.1	1,040	0	5,960	573.1
		(2)投資	4,281	0.0	4,383	30,387	△ 102	△ 2.3
		長期前払消費税	0	0.0	0	26,728	0	—
		その他投資	4,281	0.0	4,383	3,659	△ 102	△ 2.3
		2 流動資産	3,312,851	28.5	2,743,949	2,029,839	568,902	20.7
		(1)現金及び預金	2,101,445	18.1	1,411,043	810,991	690,402	48.9
		(2)未収金	1,183,758	10.2	1,308,315	1,186,038	△ 124,557	△ 9.5
		(3)貸倒引当金	△ 4,918	△ 0.0	△ 5,085	△ 4,666	167	3.3
		(4)貯蔵品	32,220	0.2	29,484	37,321	2,736	9.3
		(5)前払金	346	0.0	192	155	154	80.2
	資 産 合 計		11,612,746	100.0	11,454,558	11,062,424	158,188	1.4

ア 固定資産

固定資産は8,299,895千円で、前年度に比べ410,714千円(△4.7%)減少している。
これは主に、器械及び備品、建物が減少したことによるものである。

イ 流動資産

流動資産は3,312,851千円で、前年度に比べ568,902千円(20.7%)増加している。
これは主に、現金及び預金が増加したことによるものである。
また、貯蔵品の状況について、たな卸検査を実施したところ、適正に管理されていた。

有形固定資産明細書

(単位：千円)

資産の種類	年度当初 現在高	当年度 増加額	当年度 減少額	年度末 現在高	減価償却累計額			年度末 償却未済高
					当年度 増加額	当年度 減少額	累計	
土地	1,114,298	0	0	1,114,298	0	0	0	1,114,298
建物	17,914,986	79,441	0	17,994,427	266,000	0	12,086,885	5,907,542
構築物	484,361	0	0	484,361	0	0	460,143	24,218
器械及び備品	5,613,718	139,605	53,138	5,700,185	366,960	50,481	4,458,186	1,241,999
車両	11,138	0	0	11,138	0	0	10,581	557
建設仮勘定	1,040	7,000	1,040	7,000	0	0	0	7,000
合 計	25,139,541	226,046	54,178	25,311,409	632,960	50,481	17,015,795	8,295,614

未収金の状況

(単位：千円)

区 分	令和3年度末現在高			令和2年度末現在高 B	増減 A-B
	過年度分	令和3年度分	計 A		
医業未収金	43,467 (0)	933,001 (13,714)	976,468 (13,714)	1,041,611 (14,414)	△ 65,143 (△ 700)
医業外未収金	0	207,290	207,290	266,704	△ 59,414
合 計	43,467	1,140,291	1,183,758	1,308,315	△ 124,557

(注) 1 令和3年度分医業未収金のうち、保険者負担分は2月調定分、3月調定分を含む(調定から2か月後に入金。)

2 () 内は、クレジットカード分

(2) 負債及び資本の部

負債及び資本の内訳は、下表のとおりである。

負債・資本内訳表

(単位：千円・%)

区 分			令和3年度		令和2年度	令和元年度	前年度との比較	
			金額 A	構成比	B		増減C(A-B)	率C/B
貸 借 方	負 債	1 固定負債	6,325,949	54.5	7,228,880	8,031,410	△ 902,931	△ 12.5
		(1)企業債	6,325,949	54.5	7,228,880	8,031,410	△ 902,931	△ 12.5
		(2)引当金	0	0.0	0	0	0	—
		2 流動負債	2,133,666	18.4	2,400,299	2,174,575	△ 266,633	△ 11.1
		(1)企業債	1,036,631	8.9	1,035,030	1,091,842	1,601	0.2
		(2)未払金	766,172	6.6	1,035,089	781,825	△ 268,917	△ 26.0
		(3)引当金	302,429	2.6	300,680	270,847	1,749	0.6
		(4)預り金	28,434	0.3	29,500	30,061	△ 1,066	△ 3.6
		3 繰延収益	536,170	4.6	542,224	295,446	△ 6,054	△ 1.1
		(1)長期前受金	1,098,412	9.4	1,058,396	796,878	40,016	3.8
		(2)長期前受金収益化累計額	△ 562,242	△ 4.8	△ 516,172	△ 501,432	△ 46,070	△ 8.9
		負 債 合 計	8,995,785	77.5	10,171,403	10,501,431	△ 1,175,618	△ 11.6
	資 本	4 資本金	11,907,411	102.5	11,818,650	11,720,477	88,761	0.8
		(1)自己資本金	11,907,411	102.5	11,818,650	11,720,477	88,761	0.8
		5 剰余金	△ 9,290,450	△ 80.0	△ 10,535,495	△ 11,159,484	1,245,045	11.8
		(1)欠損金	△ 9,290,450	△ 80.0	△ 10,535,495	△ 11,159,484	1,245,045	11.8
		当年度未処理欠損金	△ 9,290,450	△ 80.0	△ 10,535,495	△ 11,159,484	1,245,045	11.8
		資 本 合 計	2,616,961	22.5	1,283,155	560,993	1,333,806	103.9
	負 債 ・ 資 本 合 計		11,612,746	100.0	11,454,558	11,062,424	158,188	1.4

ア 固定負債

固定負債は6,325,949千円で、前年度に比べ902,931千円(△12.5%)減少している。
これは、企業債が減少したことによるものである。

イ 流動負債

流動負債は2,133,666千円で、前年度に比べ266,633千円(△11.1%)減少している。
これは主に、未払金が減少したことによるものである。

ウ 繰延収益

繰延収益は536,170千円で、前年度に比べ6,054千円(△1.1%)減少している。

エ 資本金

資本金は11,907,411千円で、前年度に比べ88,761千円(0.8%)増加している。

オ 剰余金

剰余金は△9,290,450千円で、前年度に比べ1,245,045千円(11.8%)増加している。
これは、当年度未処理欠損金が減少したことによるものである。

5 他会計補助金等の状況

一般会計からの補助金等については、下表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分			令和３年度	令和２年度	令和元年度	前年度との比較	
			A	B		増減C(A-B)	率C/B
収益的収入	補助金	救急医療	68,537	68,537	68,537	0	－
		企業債償還利子	92,732	104,496	116,039	△ 11,764	△ 11.3
		結核病床運営費	38,803	39,744	38,274	△ 941	△ 2.4
		精神病床運営費	158,093	184,447	201,219	△ 26,354	△ 14.3
		高度医療	429,629	409,351	413,623	20,278	5.0
		感染症病床運営費	31,882	31,882	31,882	0	－
		医師等研究研修費	6,215	5,959	13,815	256	4.3
		共済費追加費用	18,090	18,522	18,727	△ 432	△ 2.3
		基礎年金拠出金公的負担経費	0	0	0	0	－
		児童手当	22,110	20,630	18,165	1,480	7.2
		認知症疾患医療センター運営費	6,899	6,859	4,000	40	0.6
		病院群輪番制運営費	13,050	13,050	14,328	0	－
		新型コロナウイルス感染症対策事業	17,624	25,358	0	△ 7,734	△ 30.5
		計	903,664	928,835	938,609	△ 25,171	△ 2.7
資本的収入	出資金	企業債償還元金	86,261	95,673	102,596	△ 9,412	△ 9.8
		医療機器購入費	17,367	80,323	2,500	△ 62,956	△ 78.4
		施設改良費	0	60,630	0	△ 60,630	皆減
		計	103,628	236,626	105,096	△ 132,998	△ 56.2
合 計			1,007,292	1,165,461	1,043,705	△ 158,169	△ 13.6

他会計補助金等は1,007,292千円で、前年度に比べ158,169千円(△13.6%)減少している。

このうち収益的収入は903,664千円で、前年度に比べ25,171千円(△2.7%)減少し、資本的収入は103,628千円で、前年度に比べ132,998千円(△56.2%)減少している。

6 キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

区 分	令和3年度 A	令和2年度 B	増減 A-B
1 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	1,245,045,320	623,989,263	621,056,057
減価償却費	632,960,452	680,666,876	△ 47,706,424
引当金の増加額（△減少）	1,582,000	30,252,000	△ 28,670,000
長期前受金戻入額	△ 46,070,731	△ 14,739,362	△ 31,331,369
固定資産除却損・売却益	2,656,900	94,462,413	△ 91,805,513
受取利息収入（△）	0	0	0
支払利息	139,989,078	158,045,933	△ 18,056,855
未収金の増加（△）・減少額	924,243	13,746,262	△ 12,822,019
未払金の増加・減少（△）額	△ 9,739,981	△ 3,576,600	△ 6,163,381
たな卸資産の増加（△）・減少額	△ 2,734,851	7,837,243	△ 10,572,094
長期前払消費税	0	26,728,463	△ 26,728,463
その他の流動資産の増加（△）・減少額	△ 155,056	△ 37,370	△ 117,686
その他の流動負債の増加・減少（△）額	△ 1,065,380	△ 560,711	△ 504,669
小 計	1,963,391,994	1,616,814,410	346,577,584
利息受取額	0	0	0
利息支払額	△ 139,989,078	△ 158,045,933	18,056,855
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,823,402,916	1,458,768,477	364,634,439
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
固定資産取得・建設改良実施額	△ 225,005,631	△ 479,156,901	254,151,270
固定資産取得・建設改良実施に係る補助金等収入	28,466,991	137,682,000	△ 109,215,009
固定資産売却収入	0	0	0
一般会計からの繰入金	100,310,900	222,008,120	△ 121,697,220
投資	102,251	△ 724,300	826,551
投資活動に伴う前払金等の債権の増加（△）・減少額	123,633,000	△ 136,023,600	259,656,600
投資活動に伴う未払金等の債務の増加・減少（△）額	△ 259,177,719	256,840,624	△ 516,018,343
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 231,670,208	625,943	△ 232,296,151
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
一時借入れによる収入	0	400,000,000	△ 400,000,000
一時借入れの返済による支出	0	△ 400,000,000	400,000,000
建設改良等に係る企業債償還による支出	△ 1,035,030,224	△ 1,091,841,929	56,811,705
建設改良等に係る企業債による収入	133,700,000	232,500,000	△ 98,800,000
財務活動に伴う前払金等の債権の増加（△）・減少額	0	0	0
財務活動に伴う未払金等の債務の増加・減少（△）額	0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 901,330,224	△ 859,341,929	△ 41,988,295
4 資金増加額	690,402,484	600,052,491	90,349,993
5 資金期首残高	1,411,043,040	810,990,549	600,052,491
6 資金期末残高	2,101,445,524	1,411,043,040	690,402,484

7 経営分析

分析項目			令和 3年度	令和 2年度	令和 元年度	全国平均 (令和2年度)	算 式
構成比率	固定資産 構成比率	%	71.5	76.0	81.7	71.7	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産}+\text{流動資産}+\text{繰延資産}} \times 100$
							総資産の固定化の度合いを表すもので、比率の低い方が望ましい。
	固定負債 構成比率	%	54.5	63.1	72.6	51.9	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債}+\text{資本合計}} \times 100$
							固定負債と総資本との割合を表すもので、比率の低い方が望ましい。
	自己資本 構成比率	%	27.2	15.9	7.7	33.2	$\frac{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}}{\text{負債}+\text{資本合計}} \times 100$
							総資本のうち自己資本の占める割合を示したもので、比率の高い方が望ましい。
財務比率	固定比率	%	—	—	—	216.1	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延収益}} \times 100$
							固定資産と自己資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。
	固定資産対 長期資本比率	%	87.6	96.2	101.6	84.2	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{固定負債}+\text{繰延収益}} \times 100$
							固定資産と長期資本との割合で資本固定化の程度を示すものであり、100%以下であることが望ましい。
	流動比率	%	155.3	114.3	93.3	190.2	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
							企業の支払能力を見るもので、この比率が大きいくほど支払能力が高いとされている。
回転率	自己資本 回転率	回転	—	—	—	1.7	$\left(\frac{\text{医業収益}}{\frac{\text{期首自己資本}+\text{期末自己資本}}{2}} \right)$
							自己資本の働きを観察したもので、数値が大きいくほど資本が効率的に使われていることを示す。
	流動資産 回転率	回転	2.6	3.0	3.4	2.1	$\left(\frac{\text{医業収益}}{\frac{\text{期首流動資産}+\text{期末流動資産}}{2}} \right)$
							流動資産の使用利用度を表すもので、数値が高いほど運用形態が良好なことを示す。
	未収金回転率	回転	6.3	5.8	6.4	5.0	$\left(\frac{\text{医業収益}}{\frac{\text{期首未収金}+\text{期末未収金}}{2}} \right)$
							未収金の回収度を測定するもので、数値が高ければ未収金の回収速度が良好なことを示す。
収益率	総収支比率	%	114.0	106.8	100.1	102.2	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
							総収益と総費用との割合で、営業活動の能率を表すものであり、比率の高い方が望ましい。
	医業収支比率	%	92.6	86.0	95.1	86.0	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
							医業収益と医業費用との割合で営業活動の能率を表すものであり、この比率が高いほど経営状態が良好なことを示す。
	総資本利益率	%	10.8	5.5	0.1	2.56	$\left(\frac{\text{当年度経常利益(損失)}}{\frac{\text{期首総資本}+\text{期末総資本}}{2}} \right) \times 100$
							経常利益と総資本との割合で、企業全体の収益性を表すものであり、比率の高い方が望ましい。

分 析 項 目			令和 3年度	令和 2年度	令和 元年度	全国平均 (令和2年度)	算 式		
そ の 他	医業収益に対する 職員給与費の割合	%	56.3	60.0	53.2	59.8	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$		
		医業収益に対する職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。							
	医業費用に対する 職員給与費の割合	%	52.2	51.6	50.6	49.1	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業費用}} \times 100$		
		医業費用に占める職員給与費の割合であり、比率が低ければ効率的な運営であることを示す。							
	病床利用率			67.2	64.4	73.8	67.2	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	
			一般病床	70.3	67.6	80.5	68.4		
			結核病床	43.6	28.6	0.4	12.0		
			精神病床	60.4	59.0	55.9	54.6		
			感染症病床	0.0	4.9	0.4	18.8		
		ベッドがどれだけ利用されたかを示すものであり、比率が高ければ利用効率が良好なことを示す。							
	1日平均 患者数	入 院	人	269.5	258.4	296.1	298.0	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{入院診療日数}}$	
		外 来		729.2	703.1	802.7	745.0	$\frac{\text{年間延外来患者数}}{\text{外来診療日数}}$	
		1年間を通じての1日平均患者数であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。							
	患者1人1日当たり診療収入		円	27,321	26,410	25,420	32,672	$\frac{\text{入院・外来収益}}{\text{年間延入院・外来患者数}}$	
				入 院	55,792	52,964	51,333	59,138	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間延入院患者数}}$
				外 来	11,453	11,752	10,841	16,938	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間延外来患者数}}$
		患者1人1日当たりの平均の診療収入であり、数値が高ければ収益面で良好なことを示す。							
	薬品使用効率	投薬薬品	%	76.9	74.5	79.9	93.0	$\frac{\text{薬品収入(投薬分)}}{\text{投薬用薬品費}} \times 100$	
		注射薬品		76.9	78.9	73.3	95.4	$\frac{\text{薬品収入(注射分)}}{\text{注射用薬品費}} \times 100$	
		薬品費に対する薬品収入の割合を示すものであり、比率の100%を超える部分が利益の大きさを示しており、この比率が高ければ収益面で良好なことを示す。							

- (注) 1 各比率の算出方法及び計算の際に用いた基礎数値は、総務省自治財政局編「令和2年度地方公営企業年鑑」の例による。
2 全国平均は、総務省自治財政局編「令和2年度地方公営企業年鑑」の数値である。
構成比率から収益率までの項目は、経営主体が市である公立病院の数値である。また、その他の項目は、400以上500未満のベッド数を所有する公立病院の数値である。
3 自己資本＝資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益
4 総資本＝負債・資本合計